

## 防災(1) 出雲区自主防災会(桜井市)

| 項目              | 内容                         |
|-----------------|----------------------------|
| 世帯数・人口          |                            |
| ◇世帯数            | 120世帯                      |
| ◇人口             | 360人                       |
| ◇内65歳以上人口(高齢化率) | 115人 (32%)                 |
| 地域の特徴           |                            |
| ◇まちの特徴          | 初瀬川(大和川の上流)沿いの中山間地域        |
| ◇過去の災害、想定される災害  | 「出雲の大火」「初瀬流れ」 ・ 地震、土砂災害、水害 |
| ◇犯罪発生状況、想定される犯罪 | 盗難事件                       |

|                |  |
|----------------|--|
| 設立年月日          | 平成19年5月  |
| 設立のきっかけ        | 市の人権研修会で江戸時代に発生した大水害「初瀬流れ」を学び、自主防災活動の大切さを認識した                                |
| 目的・キャッチフレーズ    | 地域住民の自主的な防災活動を推進する ・ 「わが郷土を愛する」  |
| 予算規模           | 年間70,000円  |
| 主な活動内容         |  |
| ◇防災・防犯など一体的な活動 | 地区内巡視  |
| ◇防災活動          | 危険箇所の点検 ・ 防災地図の作成 ・ 災害調査表の作成 ・ 救出救命講習会<br>各種訓練の実施(地震体験 ・ 初期消火 ・ 避難誘導 ・ 給食給水) |
| ◇防犯活動          |  |
| ◇その他の活動        |  |
| 主な連携先          | 出雲区自治会 ・ 消防団 ・ 民生児童委員  |

## 桜井市・出雲区自主防災会

- ◇世帯数 : 120世帯
- ◇人口 : 360人
- ◇高齢化率 : 32%

### ◆地域特性

- ・初瀬川の渓谷で土砂災害を受けやすい
- ・築100年以上の家屋が30軒程度
- ・高齢者世帯の増加

### ◆出雲区自治会

- ・明治22年発足
- ・主な活動
  - 1 区有財産の管理
  - 2 伝統行事の継承
  - 3 防災・防犯、親睦活動



(出雲人形)

わが郷土を愛する

桜井市・出雲区自主防災会

## 出雲区自主防災会の特徴

- (1) **平成19年5月結成**
- (2) **自治会組織との連携**
  - ・役員は自治会役員が兼任
  - ・役員会は自治会役員会と同時開催(毎月1回)
- (3) **少ない予算で効果をあげる**
  - ・市からの補助と自治会費
- (4) **知識者や技術者を班員に登録**
  - ・建築士、元消防団員、元看護師、農協女性部員



## 出雲区自主防災会の活動指導案

- (1) 「過去の災害」を学び、後生に伝える
- (2) 防災・防犯の「地区内巡視」を行う
- (3) 一目でわかる「出雲区防災地図」を作成する
- (4) 「災害調査表」を活用して被害状況を把握する
- (5) 「給食・給水訓練」を実施する

## 活動指導案(1)

### ◆タイトル

「過去の災害」を学び、後生に伝える

### ◆活動の概要

「出雲の大火」(1775年)「初瀬流れ」(1811年)の災害史料を収集して現地調査を行い、掛軸にして保存する

### ◆目標・ねらい

江戸時代に発生した「2大災害」を学び、今後の防災・減災に役立てる



## 「過去の災害」を学び、後生に伝える(特徴1)

**出雲の大火** 安永4年(1775年)

代官所(清水御役所)へ差し出された報告書で、美濃町の和紙に菅原、道路、橋などが見事に記入されている。

「安永4年3月5日癸酉の夜、火災、4軒、土蔵26軒、焼屋39軒焼損あり。清水御役所へ願い上げ申し、絵圖面の如し」と記され、庄屋 堂右衛門、平寄 藤左衛門、喜右衛門、任重助の4人が連署されている。

知る

**「初瀬流れ」時の出雲村堤防決壊絵図** 天明3年(1811年)

江戸時代の出雲村の災害は寛政2年(1659年)10月10日に「初瀬堤決壊」によるもので、被害も甚重とされているが、この「初瀬堤決壊」は最大の災害として取り扱われている。

「初瀬堤決壊記」(和紙第一所蔵)によると、天明3年6月15日堤防の決壊で洪水が押し寄せ、初瀬川は堤防を破り、村を襲った。結果として堤防が壊れ、村が壊滅した。各町の被害状況は次の通り。

【被害状況】

- ・初瀬川 5軒、1町、7軒と土蔵10軒、杉並1軒
- ・堀ノ尾崎 金戸4軒と堂1つと土蔵1軒
- ・上ノ森 金戸1軒、死人24人、建物数知らず
- ・初瀬 天明3年6月15日の夜に決壊し、死人13人、初瀬 金戸流木4軒

このように被害も甚重とされており、寛政2年、火災12戸、死人126人、このほか堤防、橋、物産の被害は約10軒。

学ぶ

